

大谷石文化における“時間と産業の積層”としての場所性の抽出とストーリー構築 -日本遺産認定に伴う魅力発信に向けた調査プロジェクト-

安森 亮雄(建築都市デザイン学科 准教授), 小林 基澄・丸山貴大(宇都宮大学 院生)
NPO法人 大谷石研究会, 宇都宮市 文化課・都市計画課・大谷振興室

■伊豆石(静岡県)調査(6月23~25日)

静岡県の伊豆半島における、伊豆石の採石場及び石の町の繋がりや現状を視察、調査した。
伊豆半島各地では、花崗岩(伊豆硬石)や宇都宮市の大谷石と同じ凝灰岩の一種である伊豆軟石(以下伊豆石と呼ぶ)が産出する。それらは石を船によって東京まで運搬され、江戸時代から城壁や敷石などに利用されてきた。しかし採石産業は次第に衰退していき、現在採掘を行っている業者はみられない。しかしながら、そこには宇都宮市と同様に、採石場跡が点在し、伊豆石を用いて造られた蔵や町家、塀といった建造物が連続する町並みを形成しているなど、かつての産業の面影が現在でもみられる。また、質のよい地層をめがけて横に石を掘る「垣根掘り」の技術と職人が大谷に伝播したのは伊豆長岡からであることなどからも、伊豆と宇都宮市の採石産業や石のまちとの共通点、関連がみとれる。



マーブル模様が特徴的な伊豆石



大谷石研究会と同行した修善寺の採石場跡

伊豆石の調査は、2日目の途中までは、NPO法人大谷石研究会と共に行った。まず、伊豆北部の熱海市と、中央部の伊豆長岡市の建物や採石場を見学した。2日目は、世界遺産である蘆山反射炉、江川邸を回り、修善寺にある採石場跡を見学した。その後、伊豆南西部の松崎市まで移動し、石の町並みや採石場跡、美術館を回った。松崎市は左官業が盛んであったことから、蔵や町家の一階部分が伊豆石、二階部分が漆喰のなまこ壁であるハイブリットのものも多く建てられており、採石と左官の産業の関連がみられた。最終日は伊豆半島の南端に位置する下田市の採石場や町並みを見学した。下田市には多くの蔵や町家が残り、それらが市街地に水路とともに連続してみられる景観を形成していた。

また、下田市の教育委員会にヒアリングを行い、石のまちや現在のまちづくりの取組みについて伺った。下田市では独自に「下田まち遺産」を認定しており、現在約160の建物や景観などが指定され、その中には伊豆石を用いた建物や採石関連の景観が含まれている。このことから、下田市では積極的に石を含めた町並みを保存する動きがあることが分かった。しかし一方で、現在人口の流出が見られることや、採石を行っている業者がないなどの、地域創生への課題があることも判明した。



大谷石の定尺(1尺×3尺)よりも細長い伊豆石の寸法(20cm×80センチ)



下田市の案内による採石場跡の見学の様子



垣根掘りの跡の残る松崎市の室岩堂(採石場跡)



1階部分が伊豆石、2階が漆喰なまこ壁の蔵(松崎市)



伊豆石の擁壁、町家、蔵のみられる下田市の景観



下田市教育委員会へのヒアリングの様子

■大谷石産業の場所性調査

大谷地区では、石材産業最盛期の遺構が現存し、その再生が進んでいる。採石場跡地が公園、昭和30年代の団体観光施設がベーカリー、大谷石を出荷するためのプラットフォームが仮設の公開テラス等に用途と場所が変化している。これらは、単なる古代遺跡や新規施設ではなく、地域産業の上に成立する、いわば場所のリノベーションとその魅力である。こうした時間と空間とその用途の積み重ねを含む時層としての場所性を、再生された地点、今後再生可能な地点を含め、文献・資料調査と関係者へのヒアリング調査を行った。



蒸気機関車での石の運搬(大谷石材協同組合より)



大谷石材協同組合へのヒアリングの様子



日本遺産ロゴマーク



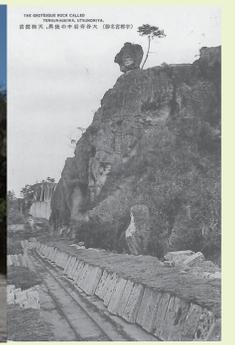
大谷地区の位置関係



旧瓦作駅 1962年航空写真



昭和期のレストハウス(左)と昭和20年代の採石場へ延びる人車軌道(右)



大谷地区における産業の場所性に関する調査では、まず地図資料と航空写真を元に、採石関連の関係者へのヒアリングを行い、採石が行われていた頃(初期)から現在に至るまでの土地利用の変遷について伺った。その結果をもとに、一般に公開されている部分の程度、採石場跡との位置関係、産業遺産の有無から現在の空間について分析を行った。さらに、時層タイプと空間タイプを重ね合わせ、大谷地区における産業遺産からみた時層としての場所性を見出した。それらは、文化庁日本遺産認定を受けた大谷石の活用による地域活性化に向けて、地域産業と時間経過をふまえた場所性から、その情報発信や観光ルート作成のための知見が得られると考えられる。

名称(初期)	用途						名称(現在)	線形	時層タイプ
	S.22	S.37	S.51	H.2	H.17	H.30			
坂本山(南)	採石場	飲食店	飲食店	採石場跡	空き家	飲食店	大谷公園 参道入口	分岐型 (二股・三股) +統合型	A1 初期採石場-分岐-観光公開型 採

場所の変遷



平成30年にオープンしたベーカリー(左)現在の平和観音へ延びる参道(右)